

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

博物館新美南吉記念館

岩橋 平武

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
31-005	企画展事業(新美南吉記念館)	なし	A	特別展では、学芸員による調査成果も活かして新美南吉の安城での暮らしぶりをわかりやすく伝える展示ができ、安城で顕彰を行う個人・団体との交流も深まった。秋季企画展は、公開されたばかりのストップモーションアニメーションごんについて、制作会社の全面的な協力の下、人形や絵コンテなど貴重な資料をふんだんに展示し、その魅力を伝えることができた。また、春季企画展の画家による似顔絵描き、秋季企画展のアニメーション監督によるミュージアムトークなどゲストと来館者が触れ合える機会を設定したことで、より市民に興味を持ってもらうことができた。	改善 推進	新美南吉の魅力発信という核心を貫きながらも、時局的な話題を捉え、南吉及びその文学の魅力や毎年の企画展(特別展)の内容に反映することで、来館者が何度も足を運びたい記念館となるよう、今後も充実を図る。令和2年度は、南吉をテーマにした4コマ漫画の原画展、南吉が学生時代に幼年童話を発表した幻の雑誌「カシコイ小生」の新発見資料と美しい挿絵原画の展示など、文学の堅いイメージを取り払った柔軟なアプローチやビジュアルを通して興味を引き出す展示に力を入れ、南吉ファン以外の広い層への訴求を図る。 ※南吉の東京時代をテーマにした特別展はコロナウィルスの影響により今年度の開催を見送る。
31-001	新美南吉記念館一般事務	なし	A	新美南吉に興味をもってもらう「きっかけ」として、また、南吉愛好家に更に理解を深めてもらえるように、各種講座・教室を充実させ、参加者の満足度を向上することができた。展示ガイドボランティアが無理なく楽しんで活動できる良好な信頼関係ができている。	改善 推進	南吉に関する講座、朗読会、企画展などを継続して行っていく。各種事業を充実させるため、地域、地元企業、有識者、ボランティアと連携を強化し、常に新しい魅力の発掘、発信に努め、市民の来館者数の増加を重点目標にする。
31-003	新美南吉童話賞事業	なし	B	入選作品集『赤いろうそく』については、応募意欲の刺激を意図して、全掲載作品に挿絵をつけ、紙質や表紙の仕様を向上させるなどの改善をした。また、半田市出身在住の児童文学作家が最終審査員に加わったことで、より半田市らしさをアピールできるようになった。応募作品の質についても、最終審査員より、一般の部の質が向上しているとの意見があり、全国区の児童文学創作コンクールとしての地位確立に向け、前進した。しかし、応募総数が減少したことで第一次審査員に辞退者が多く、今後の確保が課題である。	改善 推進	多くの人の目に留まり、応募したいという意欲を高めるため、募集要項の表記の改善やデザインの更新をする。応募者のニーズを分析することにより、応募者を増やすための効果的なPRの方法を考え、実践していく。応募数を増やすと同時に、応募作品の質の更なる向上を図り、魅力の保持に努める。また、応募のきっかけ作りや来館促進策として、新美南吉記念館に応募作品を直接持参した人への参加賞進呈を継続する。
課等長	1次評価(元年度の総括評価)					
A	コロナウィルスによる休館の影響もあったが、入館者数は前年度を上回ることができた。新美南吉童話賞の応募数減少や、来館者の市民割合が低いことが課題であり、その対策として、記念館事業の広報・周知を強化し、童話賞や企画展、イベントの内容を工夫していく。一方で、施設面については、南吉養家に隣接する付帯施設(トイレ)の借地を地権者の理解を得て購入することができた。残る借地についても購入できるよう、地権者との交渉を粘り強く行う。					
部等長	2次評価(元年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
B	南吉文学は全国に愛好者が多く、記念館には他にはない貴重な資料がある。利用者は記念館に何を求めているのか。企画展や行事で利用者のニーズに応えることができたか。コロナウィルスの影響で自粛が続く、社会が疲弊している今こそ、文学や芸術で勇気と安らぎを与えてほしい。記念館は、南吉という半田が持つ資源を通してそれができる唯一無二の施設であり、その役割を果たしていくこと。					